

応える町政で中井が変わる

戸村ゆうじの公約進捗状況と4年間の実績

❖文字色の凡例 紺…公約の進捗状況、緑…公約以外の成果

人口増加策

中井ならではの幸せを総合計画で見える化。支援の多様化で人口社会増に転換

- ❖ 幸福度(ウェルビーイング)指標をフル活用した全国でも稀有な第七次総合計画の策定
- ❖ 移住・定住支援をI・Jターンへ拡大、結婚新生活支援補助金等により人口社会増に転換
- ❖ 空家等対策計画の策定や市街化未利用地の青写真を検討
- ❖ 役場インターンシップの前倒し実施により、町出身者の雇用が増加しています



ホームページでも
確認いただけます

女性支援

隣市の産院開設や啓発活動を通し、「育みの里・ケアの街」の足がかり

- ❖ 隣市の産院開設に合わせ、宿泊型産後ケアの開始など母子支援の選択肢を拡充
- ❖ 女性特有疾患への理解促進やオンライン診療体制の構築には至りませんでした。女性からの要望が多かった帯状疱疹予防接種の費用助成を開始

男女共同参画プランの改定

子ども・教育

高校卒業までの医療費無償化、「なかい教育ビジョン」により、学校のあり方検討を前倒し

- ❖ 高校卒業までの医療費無償化を実現。教育ビジョンを策定、学校のあり方の検討を前倒しました
- ❖ 部活動の地域展開や学校応援隊の拡充、こども家庭センター(ネウボラ)を開設
- ❖ 給食の無償化・公会計化を維持しつつ食材高騰に対応(地場野菜の拡大には至りませんでした)
- ❖ 教科書代支援は他の手当充実で見送り、児童生徒向け火山噴火対策用品は国等へ要望

学校施設の長寿命化や給食センター耐震化及びドライ化、GIGAスクール機器更新・電子黒板導入などの教育環境の整備、水泳授業の外部委託などによる学びの推進と働き方改革。子育て支援センター2週ごと土曜開庁

障がい者等への支援

ソフト、ハード両面で共生や連携を拡充

- ❖ 障がい者雇用に積極的な町内企業と災害時連携協定を締結
- ❖ 厳島湿生公園の車椅子回遊化や中学校階段の手すり・スロープ設置など
- ❖ 外国籍住民との意見交換や日本語指導員の増員等により支援体制を強化
- ❖ 民間連携による婚活支援は未着手も、県の取り組みに協力



山形県戸沢村への災害応援

高齢者支援

買い物、公共交通、見守りや認知症対策等で地域での暮らしを充実

- ❖ 買い物環境向上のため中村下地区へ大型食料品ドラッグストアを誘致
- ❖ 地域公共交通計画を改定し、車両更新や降車ポイント拡充で利便性を向上
- ❖ 独居高齢者訪問や見守り、認知症VR啓発、加齢性難聴者補聴器購入補助
- ❖ 支えられ上手を目指す「介活」の取り組みは未着手

第9期介護保険料基本料金の据え置き・負担軽減、社会福祉協議会への運営支援の充実

国等への要望活動



防災・自治会・町民活動

災害時対応の強化や地区防災計画、個別避難計画に着手、小中学校体育館に空調導入

- ❖ 防災モニター設置と提言反映や地区防災計画づくり支援、全ての小中学校体育館への空調を導入
- ❖ 防災DXとして個別避難計画等に資する地域福祉支援システムを導入
- ❖ 自治会助成金の拡充や地区ごとの子ども同居率や高齢化率を見える化、事例共有を進めました
- ❖ 急傾斜地センサーの設置は運用コスト等の課題から導入を見送り

2つの総合型地域スポーツクラブ設立支援、国土強靱化計画の策定、消防団の負担軽減及び団員定年制の撤廃、町内主要交差点への防犯カメラ設置、国民保護計画20年ぶり改定及び県内2例目の国民保護訓練の実施

新型コロナウイルス感染症対策

コロナ後も感染症対策を強化、コロナ禍以降の物価高騰対策は広く厚く

- ❖ PCR検査普及やコロナ禍終息に伴い、コロナ後遺症のニーズ把握等はいきませんでした
- ❖ 足柄上医師会発表の新型コロナやインフルエンザの町内感染状況の発信を継続しています
- ❖ 新たなパンデミックに備え、感染症行動計画を改訂、オンライン教育では教員支援を継続して実施
- ❖ 国支援金を活用した町独自の物価高騰対策は、水道基本料金減免(10か月分)のほか、全世帯への地域通貨きら(5000円相当)、ひとり当たり9000円の給付などで広く厚く対応しました

公共施設・公共インフラ

学校等を含む長寿命化・耐震化を進め、生涯学習施設は声を受け立ち止まりました

- ❖ 生涯学習施設はワークショップ形式で取り組みましたが、費用や学校等との兼ね合いへの懸念を受け、理解が受けられないまま先に進むことは難しいと立ち止まる判断をし、検討委員会で検討しています
- ❖ 小中学校や中央公園、役場庁舎等公共施設等総合管理計画に基づき、長寿命化に伴う修繕等を実施
- ❖ きれいな公衆トイレに向け児童公園更新、他は排水管清掃やペンキ塗替による維持管理強化から開始
- ❖ 耐震化がなく耐用年数が超過した中村下会館は廃止し、今後の地域に合わせた検討に繋がります
秦野中井インター・平塚アクセス道路が、かながわのみちづくり計画(令和8年3月改定)の整備推進箇所

行財政運営

職員の働き方改革や町民に喜ばれる温かく活気ある町役場に

- ❖ 会計年度任用職員を含むすべての職員と面談し、「中井町人材育成基本方針」を約20年ぶりに改定。
- ❖ カフェミーティング12回、町長相談8回、地域懇談会は4テーマで開催、新たな施策や政策判断に反映
- ❖ 実効性ある予算編成の見える化に向け、予算要求の精緻化を推進
- ❖ 応える道路整備、倒木落枝対応の強化、上下水道の維持管理
- ❖ 町内外の企業や団体や企業との対話・連携による地域活性化と企業誘致の実現
町DX推進計画策定、ネットワーク再構築、コンビニ各種証明書の交付拡充、こども園や小中学校での保護者との連絡システム導入、「書かない窓口」やオンライン申請、生成AI全庁利用、施設予約のスマートロック・キャッシュレス対応、ガバメントクラウド接続、GIS(地理情報システム)運用、庁内無線化によるペーパーレス化

農業振興

制度拡充や竹林を軸とした連携により、農と地域を守る取り組みを構築

- ❖ 臨時営農支援金の補助、新規就農者への農地斡旋や農業振興補助金の多様化
- ❖ 被災農地復旧に国補助金の活用と町独自の農地等災害復旧補助金を創設
- ❖ 有害鳥獣対策では、従事者を特別職非常勤公務員とし補償体制整備。
- ❖ 竹害から竹財への取り組みで、竹林調査を実施、町内外団体との連携を開始
- ❖ 県水源林整備補助金を竹害対策等に活用できる仕組み作りにつなぎました
企業版ふるさと納税事業、ふるさと納税の推進、商工会街路灯撤去補助金



食を通じた国際交流

産業振興・企業誘致

町内事業者との連携強化・先手先手の企業誘致

- ❖ 町内事業者からなる中井町の環境を良くする会で、町長懇談会などを開始、町や企業同士の連携を深める連絡会の設置に向けた取り組み
- ❖ 久所地内の企業跡地、グリーンテック2区画の内1区画(半導体装置製造工場)への誘致活動。諏訪地区では、自治会内工事連絡会のご協力で情報共有、安心安全に配慮。メガソーラー終了後を見据え県等への要望活動



ラジオ番組への出演

自然・環境

広域化に備えごみ減量化・生物多様性のまちづくりの足がかり

- ❖ 1市5町ごみ広域化では設計・整備費の均等割を1団体2%に抑え、残りを人口割とする提案で負担を劇的に軽減、運送費の激変緩和措置を今後の検討課題に乗せました
- ❖ 高齢化に合わせたごみステーション資機材の見直しや分別推進の啓発を実施
- ❖ 美・緑なかいフェスティバルのエコ化を推進、使い捨てオムツ資源化は近隣町と調査連携
- ❖ 生物多様性の啓発に向け観察会の実施、多様性調査を行っています

文化・観光

郷土資料デジタル化や祭礼調査、中央公園大型遊具整備等で中井を伝える

- ❖ 震生湖誕生100年に合わせ駐車場整備・震災記念誌のレプリカ及び解説書、震生湖誕生観察会実施
- ❖ 専門性を持つ参与を設置し、全史料を整理しデジタル郷土資料館開設
- ❖ 五所八幡宮祭礼調査を3か年で実施中、町史編纂の期限を定めるまでには至りませんでした
- ❖ 中井の道を再発見する総合型地域スポーツクラブ設立支援
- ❖ 町独自の天気情報番組。町長自らのPR活動により、町内店舗等への誘客、観光事業者の関心を高める
- ❖ 里都まちカフェを”中井を伝える”拠点にイベントや利用が増加
- ❖ 中井中央公園大型複合遊具設置、先送りしていた電光掲示板を含む球場整備を行いました